

福岡看護大学大学院看護学研究科
学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人 福岡学園

目 次

福岡看護大学大学院看護学研究科学生の確保の見通し等

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
① 学生の確保の見通し	
ア 定員充足の見込み	1
イ 定員充足の根拠となる調査結果の概要	1
1 設置圏域の看護系大学院の志願者動向と定員充足状況	1
2 通学に至便な立地状況	1
3 受験対象者等へのアンケート調査	2
1) 福岡看護大学の在学生に対する調査結果	2
2) 医療機関等に勤務している看護職者等に対する調査結果	2
ウ 学生納付金の設定の考え方	3
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	3
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	4
1 看護学研究科看護学専攻修士課程において養成する人材	4
1) 現場での看護指導者や看護管理者を目指す人材	4
2) 臨床や学校等での看護教育の指導的役割を担う人材	4
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	
1 大学院教育の方向性	5
2 関係団体等からの要望	5
3 医療現場等からの要請	5
1) 看護分野の大学院教育の必要性及び看護学研究科の設置の必要性	6
2) 福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用	6

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程における入学定員数の設定の考え方は、福岡県内や大学設置圏域の看護系大学院の志願者動向や定員充足状況をはじめ、看護学研究科看護学専攻修士課程の設置に伴う医療機関等を対象とした人材需要に関する調査結果及び福岡看護大学の在学生や医療機関等に勤務する看護職者等に対する進学需要に関する調査結果の数値を総合的に分析した。その結果をもとに、本学看護学研究科修士課程における教員組織等を踏まえて、充実した教育研究指導体制の確保が可能で、修士課程教育に責任がもてる学生数について配慮したうえで、入学定員を5名と設定した。

イ 定員充足の根拠となる調査結果の概要

1 設置圏域の看護系大学院の志願者動向と定員充足状況

福岡市と北九州市の2つの政令指定都市を持つ福岡県には、28市、30町、2村があり、これら60市町村（令和2年3月現在）は地理的、歴史的、経済的特性などから、大きく北九州・福岡・筑後・筑豊の4地域に分けられている。福岡看護大学が位置する福岡地域は、九州の管理中枢機能や第3次産業の集積が進み、西日本のリーディングゾーンとして発展してきており、平成23年3月には九州新幹線が全線開通したほか、福岡空港の滑走路増設に向けた取組みや、博多駅を中心とした福岡市駅地下鉄七隈線と空港線の合流など、人の往来と利便性を強化する交通基盤の整備が進んでいる。

（資料1）※福岡県の4地域地図

福岡看護大学が位置する福岡地域における私立大学の看護系大学院の修士課程は、令和2年3月現在、日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科看護学専攻、福岡大学大学院医学研究科看護学専攻、純真学園大学大学院保健医療学研究科看護学専攻の3大学院で、最近2年間の定員充足の状況（純真学園大学大学院保健医療学研究科看護学専攻は2019年4月設置）をみると、2018年度は定員充足率約121.0%、2019年度は定員充足率約119.0%となっており、安定した入学定員充足の状況を維持している。

（資料2）※福岡地域の私立看護系大学院の修士課程の定員充足状況

2 通学に至便な立地状況

福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を設置する福岡看護大学のキャンパスは、福岡県福岡市中央区の天神南駅から同市西区の橋本駅までを結ぶ福岡市営地下鉄七隈線賀茂駅から徒歩約10分のところに位置している。福岡市営地下鉄七隈線賀茂駅までは、九州最大の交通機関のハブ機能を持ち、福岡市の中心業務地区でもある福岡市中央区

の同線天神南駅から約20分でのアクセスが可能である。また、令和2年2月現在、福岡市営地下鉄七隈線は博多駅までの延伸工事が進められており、開通後は博多駅から大学最寄り駅の賀茂駅まで乗り換えなしで本学までアクセスできる。以上の点で、福岡地域の医療機関等に勤務する者をはじめとする大学院生の通学に至便な立地条件である。

(資料3) ※福岡市内路線図等本学までのアクセス

3 受験対象者等へのアンケート調査

福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、福岡看護大学の看護学部看護学科に在籍している学部学生330人、及び福岡県内の病院をはじめとする医療機関等に勤務している看護職者等830人を対象として、本学修士課程への受験意向や進学意向等に関するアンケート調査を実施した。

1) 福岡看護大学の在学学生に対する調査結果

令和元年10月時点で、福岡看護大学に在学中の1～3年生の全学生330人に対して、大学院設置に関する意向調査を実施し、315人から回答を得た(回収率95.5%)。看護学研究科看護学専攻修士課程の開設初年度に受験対象となる3年生(104人)においては、「受験先の一つとして考える」と回答した者のうち、本学の修士課程に合格した場合「進学を希望する」と回答した者は5人、「併願先の結果によって進学を希望する」と回答した者は5人となっている。

また、看護学研究科看護学専攻修士課程の開設2年目に受験対象となる2年生(103人)においては、本学の修士課程を「受験したいと思う」又は「受験先の一つとして考える」と回答した者のうち、合格した場合「進学を希望する」と回答した者は17人となっている。同様に、1年生(108人)においては、本学の修士課程を「受験したいと思う」又は「受験先の一つとして考える」と回答した者のうち、合格した場合「進学を希望する」と回答した者は11人となっている。

今般、看護系学部の在学学生を対象とした進学意向に関する調査は、福岡看護大学の看護学部看護学科に在籍している者に限定した調査としたが、設置圏域の看護系大学院の設置状況からみた場合、他大学の学部卒業予定者の受験も想定されることから、学部卒業予定者の確保については十分に見込めるものと考えられる。

(資料4) ※看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)(在学学生対象)

2) 医療機関等に勤務している看護職者等に対する調査結果

福岡県内の病院をはじめとする医療機関等に勤務している看護職者等(830人)に対する看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合の進学意向に関する調査

結果では、568/830人から回答を得た（回収率68.4%）。看護学研究科看護学専攻修士課程の「受験を希望する」と回答した者のうち、合格した場合「進学を希望する」と回答した者は15人、「受験先の一つとして考える」と回答した者のうち、合格した場合「進学を希望する」と回答した者は36人となっている。

（資料5）※看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋）（看護師等対象）

このような、福岡県内の病院をはじめとする医療機関等に勤務している看護職者等に限定した調査においても、看護学研究科看護学専攻修士課程への高い進学意向がうかがえることから、有職者の確保についても十分な見通しがあると考えられる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、看護学部及び看護学研究科の運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえ、福岡県内において看護系大学院を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を参考にして学生納付金の額を検討した。また、完成年度における教育研究経費構成比率や経営経費依存率を勘案し、看護学部及び看護学研究科の運営上における人件費及び教育研究、管理運営に係る経常的経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として、入学金20万円（但し、本学卒業生は10万円）、授業料60万円、教育充実資金10万円と設定した。

（資料6）※福岡県内の私立看護系大学院の学生納付金一覧

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の学生確保に向けた具体的な取組状況については、認可申請中であることを考慮し、教育・研究内容等を周知することに努め、設置認可後は試験制度等を含めた総合的な学生募集の広報活動を集中的に行う。具体的には、大学院案内や看護学研究科の概要（研究指導テーマ等）をまとめた募集要項を作成し、福岡看護大学の在学生及び入学希望者に広く配布するとともに、ホームページへの掲載や資料請求者への郵送による配布を行う。

また、本学修士課程の専任教員は、看護学部の専任教員が兼ねることから、看護学部の在学生に対する研究テーマ等の紹介を通して、大学院教育への興味を持つよう促すとともに、各看護学分野のセミナーや学会等における専任教員による広報活動の展開や、看護学部の臨地実習の受入れ実績のある医療機関等に勤務している看護職者等に対して個別的情報提供を行う。

さらに、看護学部の学生募集戦略として実施しているオープンキャンパスや大学見学会においても、看護学研究科看護学専攻修士課程における学位授与の方針や教育課程編成の方針・入学者の受入方針などをはじめとする様々な教育情報について、積極的な広報活動を実施する。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1 看護学研究科看護学専攻修士課程において養成する人材

看護学研究科看護学専攻修士課程では、口腔から全身への健康支援に資する看護実践力と研究能力を基盤とし、①看護実践現場を牽引する看護指導者や看護管理者を目指す人材、または、②臨床や学校等での看護教育の指導者を目指す人材を養成する。

1) 看護実践現場を牽引する看護指導者や看護管理者を目指す人材

看護学に関する専門的な知識と実際にそれらを応用する能力を身に付けて、看護実践に関する諸課題を科学的に探究し、その成果を看護実践の開発・改善に活かすことのできる実践的な役割を果たす人材を養成する。

修了後は、現場での総合的な看護マネジメントを担う看護指導者や看護管理者として活躍することが想定される。

2) 臨床や学校等での看護教育の指導者を目指す人材

医療看護に関する幅広い知識を理解し、看護学に関する専門的な知識と実際にそれらを応用する能力及び看護研究に関する基礎的な知識と方法を身に付け看護実践・看護教育に関する事象を学術的に調査研究し、その成果を看護教育の実践・充実に活かすことのできる指導的な役割を果たす人材を養成する。

修了後は、医療機関等における人材育成のための継続教育や生涯教育の推進、看護師を目指す実習生に対する臨地実習指導、看護基礎教育機関等において看護教育・人材育成に携わることが想定される。

学部教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的な知識や能力を一層深化させるとともに、自ら研究課題を設定し研究活動を展開する能力を修得することにより、研究能力を備えた看護職者として、看護実践や看護教育の質の向上に貢献できる中核的な役割を果たす人材を養成する。

こうした養成する人材の目的を踏まえ、看護学研究科看護学専攻修士課程では、大学院生に学位を授与するに当たり大学院生が修了までに身に付けるべき資質や能力を含めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を次のとおり定めることとする。

- 1 口腔を起点として全身の健康を支援する看護実践の質的転換を図る能力を身に付けている。
- 2 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。
- 3 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。
- 4 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 大学院教育の方向性

「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」の最終報告によると、「看護系大学院における人材養成においては、看護学の学術研究を通じて社会に貢献できる研究者や教育者、学士課程では養成困難な特定領域の高度専門職業人や、保健、医療、福祉等に携わる専門職の協働においてマネジメント能力を発揮できる人材の養成を目指す」こととされている。

また、同報告書の「大学院における看護系人材養成の現状」の「教員の充実にかかる課題」では、「看護系大学が急激に増えたことによる教員の不足傾向や、博士課程に在学しながら教育にたずさわる教員が他分野と比較して多い等の現状もある中、高度専門職業人養成だけでなく、研究者や教育者の養成の充実も喫緊の課題である」とされている。

(資料7) ※大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会

同報告書の人材養成の方向性を踏まえ、本大学院看護学研究科では、看護実践に関する諸課題、口腔から全身への健康支援をより深く学修した上で、看護実践に関する事象を学術的に調査研究し、看護実践の開発・改善に活かすことのできる指導的な看護職者と、研究の成果を看護教育の実践・充実に活かしながら教育面で指導的な役割を果たす看護職者を育成する大学院教育を目指している。

2 関係団体等からの要望

公益社団法人福岡県看護協会からは、「福岡県の地域包括ケアシステムを推進する中で、看護協会の継続教育はジェネラリストを育成する教育体系に再構築されている過程であり、高度で専門的な看護職の育成は大学院等の高等教育機関に委ねるように考えている」、また、「医療において、看護職が他職種連携の中核的役割を担うためには、基本的な研究能力を備えた看護職の人材が不可欠である」としたうえで、「福岡学園の教育的特徴である、口腔の健康を通じて全身の健康に貢献できる医療人の育成に対しても非常に高い期待を有する」として、福岡看護大学看護学研究科看護学専攻修士課程の設置に対する要望がなされている。

(資料8) ※福岡県看護協会からの要望書

3 医療現場等からの要請

福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の設置計画を進めるうえで、地域の医療機関や関係団体などからの人材需要について検証するために、看護学部の実習生の受入実績がある医療機関(23施設)をはじめ、福岡県内の関係団体や教育機関など(29施設)計52施設を対象に、本学が設置を計画している修士課程の必要性、修了生を採用する意向についてアンケート調査を実施した。

1) 看護分野の大学院教育の必要性及び看護学研究科の設置の必要性

調査の結果、大学院で看護分野の教育を修めた人材については、回答件数40件の約87.5%にあたる35件が「必要性を感じる」と回答しており、また、福岡看護大学大学院の看護学研究科の新設については、回答件数40件の約65.0%にあたる26件が「必要性を感じる」と回答している。

資料9) ※看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果
報告書から抜粋（人材需要、新設の必要性）

2) 福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用

福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用については、回答件数40件の約27.5%にあたる11件が「採用したい」と回答しているとともに、回答件数40件の約32.5%にあたる13件が「採用を検討したい」と回答しており、福岡看護大学大学院の看護学研究科を修了した者に対する積極的な採用意向を示している。

資料10) ※看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果
報告書から抜粋（修了生の採用）

このような福岡看護大学看護学部の臨地実習の受入れ実績がある病院をはじめとする福岡県内の医療機関等に限定した調査結果においても、看護学研究科で学んだ修士課程修了生に対する採用意向の高さがうかがえることから、修了後の進路については十分な見通しがあるものと考えられる。

添付資料（資料 1 ～ 資料 1 1）

- 資料 1 福岡県の 4 地域地図
- 資料 2 福岡地域の私立看護系大学院の修士課程の定員充足状況
- 資料 3 福岡市内路線図等本学までのアクセス
- 資料 4 看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋）（在学生対象）
- 資料 5 看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋）（看護師等対象）
- 資料 6 福岡県内の私立看護系大学院の学生納付金一覧
- 資料 7 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会
- 資料 8 福岡県看護協会からの要望書
- 資料 9 看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書から抜粋（人材需要、新設の必要性）
- 資料 1 0 看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書から抜粋（修了生の採用）
- (参考)
- 資料 1 1 福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書

福岡県の4地域地図



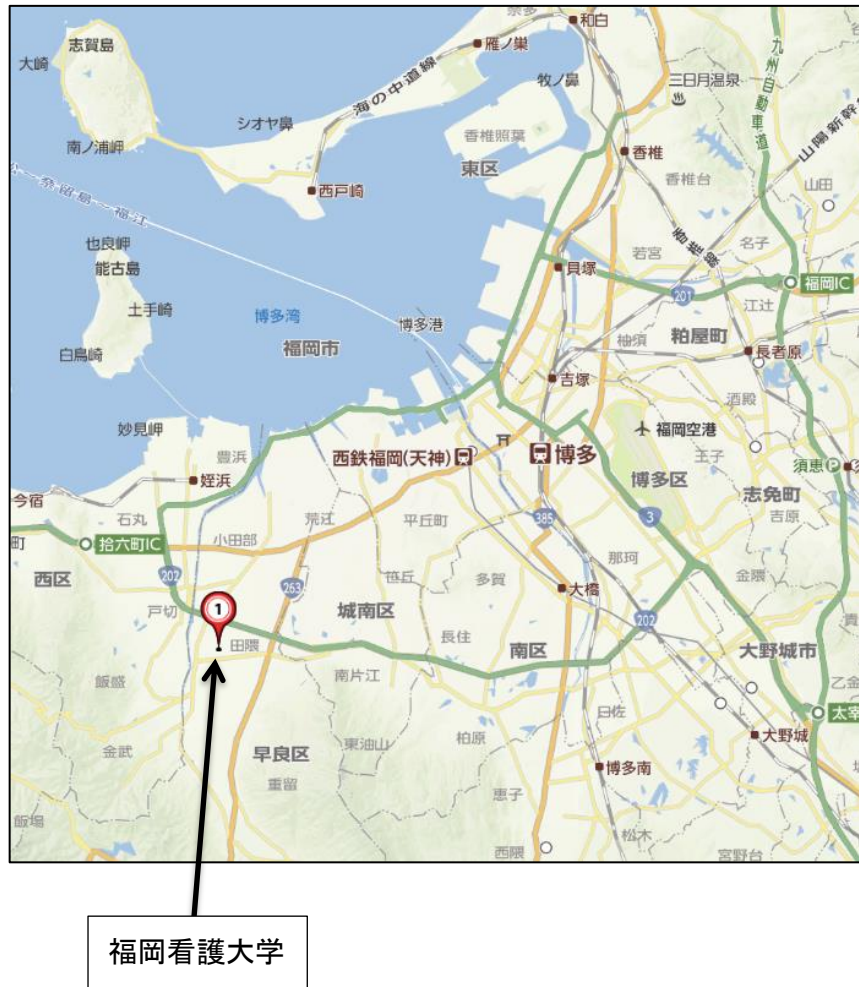
出典：福岡県移住・定住ポータルサイト（令和2年2月25日確認）

URL：<https://jju-teijuu.pref.fukuoka.lg.jp/municipalities/local.html>

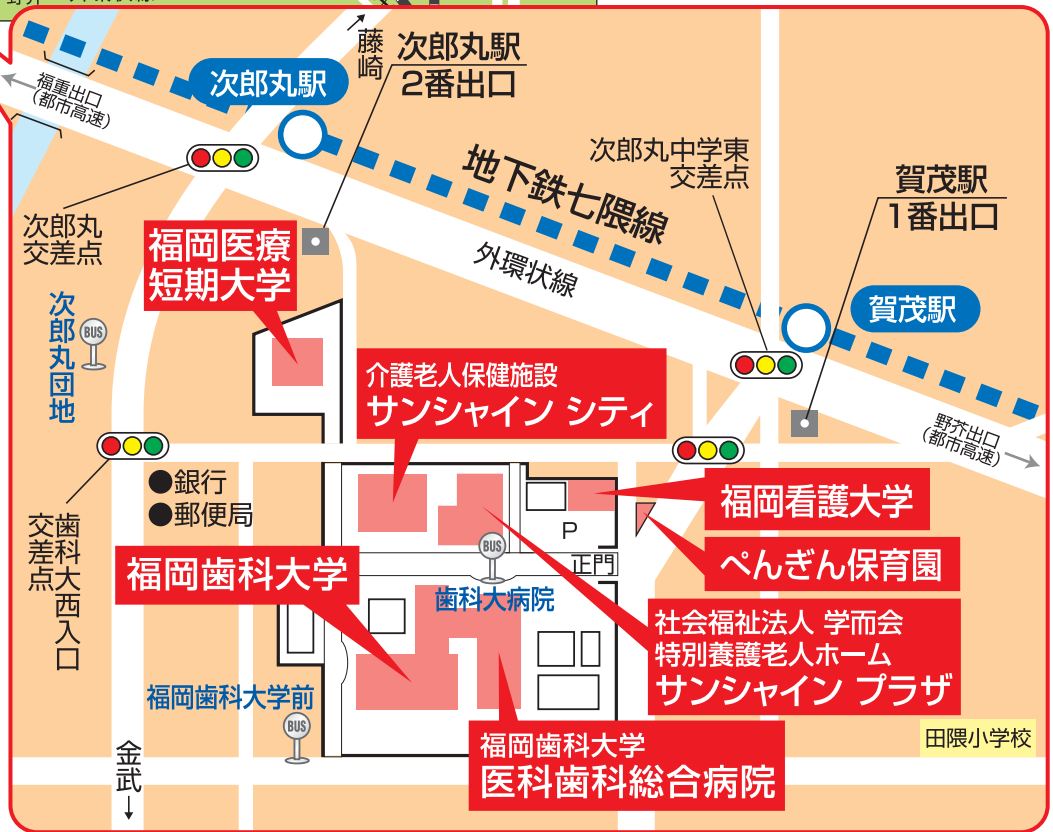
福岡地域の私立看護系大学院の修士課程の定員充足状況

大学院名	修士課程 収容定員数 (人)	2018年度 在籍者数 (人)	2018年度 定員充足率 (%)	2019年度 在籍者数 (人)	2019年度 定員充足率 (%)
日本赤十字九州国際看護大学 大学院看護学専攻	20	22	110	22	110
福岡大学大学院 医学研究科看護学専攻	12	16	133	20	166
純真学園 大学大学院看護学専攻	6 (2019年4月設置)			5	83
平均定員充足率 (%)			121		119

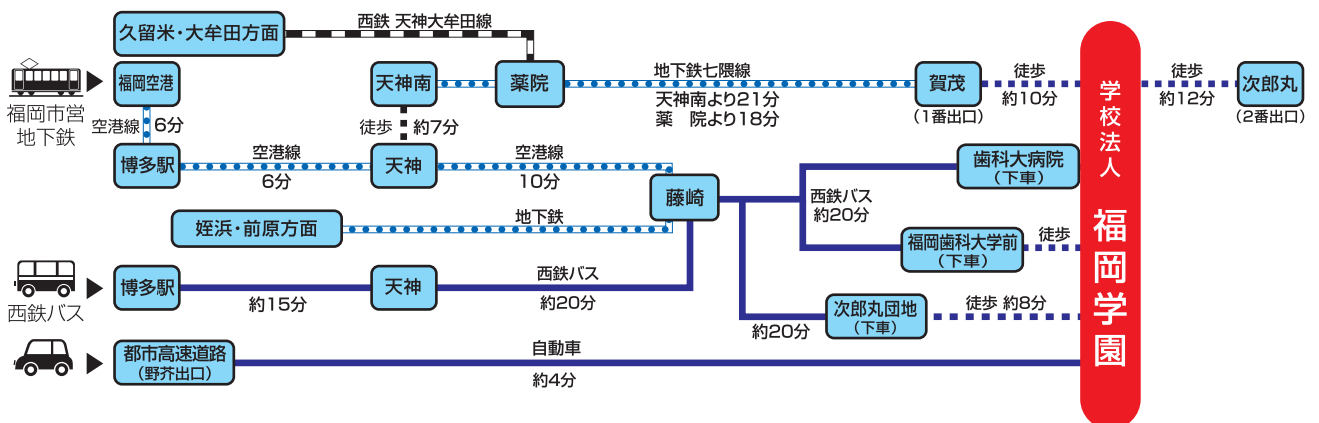
(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



交通のご案内 (主要な経路)



看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)(在学生対象)

＜福岡看護大学大学院に関する質問事項＞

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（受験希望×進学希望）

福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験を希望する」又は「受験先の一つとして考える」と回答した福岡看護大学の在学生のうち、看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答した本学在学生は33人となっている。

また、学年別では、1年生11人、2年生17人、3年生5人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答している。

このような福岡看護大学の看護学部の在学生に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学希望が示されていることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問3×問4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（全体）

No.	カテゴリ	件数/人
1*1	受験を希望する×進学を希望する	12
2*1	受験先の一つとして考える×進学を希望する	21
	合計	33

問3×問4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数/人
—	1年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	11
—	2年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	17
—	3年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	5
	合計	33

看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書(抜粋)(看護師等対象)

＜福岡看護大学大学院に関する質問事項＞

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（受験希望×進学希望）

福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験を希望する」又は「受験先の一つとして考える」と回答した看護有職者のうち、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答した有職者は51人となっている。

このような福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している一部の有職者に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学希望が示されていることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問3×問4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（全体）

No.	カテゴリ	件数/人
1*1	受験を希望する×進学を希望する	15
2*1	受験先の一つとして考える×進学を希望する	36
	合計	51

福岡県内の私立看護系大学院の学生納付金一覧

大学院名	入学金 (円)	授業料 (円)	その他、 教育充実費等 (円)
福岡看護大学大学院 看護学専攻 (本学)	200,000	600,000	100,000
日本赤十字九州国際 看護大学大学院看護 学専攻	300,000	800,000	200,000
福岡大学大学院医学 研究科看護学専攻	120,000	470,000	140,000
純真学園大学大学院 看護学専攻	500,000	1,000,000	0
久留米大学大学院医 学研究科看護学専攻	240,000	800,000	300,000
聖マリア学院大学大 学院看護学専攻	250,000	850,000	200,000
帝京大学大学院保健 学研究科看護学専攻	200,000	600,000	180,000
産業医科大学大学院 看護学専攻	282,000	535,800	0

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会
最終報告

平成 23 年 3 月 11 日

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会

目 次

はじめに	1
1. 大学における看護学教育の現状認識	2
(1) 学士課程における看護系人材養成の現状	2
(2) 大学院における看護系人材養成の現状	4
(3) 保健師助産師看護師法及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正	6
2. 今後の大学における看護系人材養成の在り方	7
(1) 学士課程における看護系人材養成の基本方針	7
(2) 大学院における看護系人材養成の基本方針	9
(3) 保健師及び助産師教育の充実方策について	9
3. 大学における看護学教育の質保証について	11
1) 学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標の策定	11
(1) 看護実践能力の定義と卒業時到達目標	13
(2) 看護実践能力の育成について	14
2) 学位課程における教育の質保証について	15
3) 修士課程等において保健師・助産師養成を行う場合の質保証について	16
4. 今後の検討課題	17
1) 教育の充実に向けた課題	17
2) 看護学教育の質保証の推進	19
添付資料1 学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標	21
添付資料2 学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標－教育内容と学習成果－	29
参考資料	43

はじめに

大学における看護系人材の養成は、昭和 27 年の看護系大学の誕生から、常に社会の医療・看護ニーズに対応できる質の高い保健師、助産師、看護師（以下「看護師等」という。）、そして看護学の研究者、教育者を確実かつ効果的に養成することを目標としてきた。

看護系大学においては、教員が看護の質の向上を目指して連綿と教育に関する研究を積み重ねながら、看護師等の基礎となる教育内容を 4 年間の学士課程の中で体系的に教授¹（以下、看護師等に共通する看護学の基礎とそれぞれの免許取得に必要となる教育内容を効率的に教授するための体系化したカリキュラムを「看護学基礎カリキュラム」という。）し、質の高い看護系人材の供給に大きく貢献してきた。

平成 4 年の「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行等を契機とした看護系大学の急激な増加（平成 3 年度 11 校、平成 22 年度現在 188 校）は、質の高い看護系人材の供給を増大させ、昨年 3 月に発表された看護師国家試験合格者に占める学士課程修了者の割合は初めて 2 割を超えるに至っている。

一方で、近年、高齢化社会の到来や医療の高度化、実習における侵襲を伴う看護行為の制約等、社会や保健医療を取り巻く環境の変化と学生の多様化に伴って、臨地実習の在り方の見直しや教育内容の工夫の必要性等の課題が指摘されている。

このような背景のもと、本検討会は、これからの大学における看護系人材養成の在り方について、改めて検討することを目的に設置された。

本検討会における審議事項は次の三つである。

第一に、学士課程における看護学基礎カリキュラムによる看護学教育の在り方

第二に、新たな看護学教育とその質の保証の在り方

第三に、大学院における高度専門職業人養成の在り方

これらのうち、学士課程における看護学基礎カリキュラムによる看護学教育の今後の在り方については、第一次報告（平成 21 年 8 月）の中で、一定の指針を示した。

¹ 平成 16 年の看護学教育の在り方に関する検討会報告「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」においては、学士課程における看護学教育の基本として、看護職に必要な能力を明確にし、その育成を確実にすることとしている。

最終報告では、第一次報告に加えて、新たな看護学教育とその質保証の在り方、さらには、大学院における看護系人材養成の在り方について検討した結果を踏まえ、今後の大学における看護系人材養成の在り方について提言する。

1. 大学における看護学教育の現状認識

(1) 学士課程における看護系人材養成の現状

<国家試験受験資格取得にかかる教育>

看護師等の国家試験受験資格を取得するために必要な教育内容は、文部科学省・厚生労働省令「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」（以下「指定規則」という。）において規定されている。厚生労働大臣が指定する専修学校等の看護師養成所においては3年間の看護師養成の後、それに積み上げる形で保健師・助産師それぞれを養成している。平成9年以降、4年間での看護師・保健師の統合カリキュラム²実施校もある。

一方、大学では、4年間の学士課程教育³の中で保健師と看護師、そして、大学によっては助産師の養成も行ってきた。

<学士課程における看護系人材養成の特徴>

大学がこうした教育を実施してきたのは、看護師等が人々の生活が営まれるあらゆる場で、あらゆる利用者に対し、責任を持って看護ケアを実施していく能力を有する必要があるという認識に基づいていたからである。

このような看護師等の養成には、指定規則による特定の職種に関する専門的な知識・技術の教育に留まらず、批判的思考力や創造性の涵養、研究能力の育成が求められる。大学

2 平成9年に指定規則において制度化されたいわゆる統合カリキュラムは、保健師養成所と看護師養成所（3年課程及び3年課程（定時制）に限る。以下同じ。）又は助産師養成所と看護師養成所の指定を併せて受け、それらの教育内容を併せて教育する課程をいう。

3 中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）における、「今後は、教育の充実の観点から、学部・大学院を通じて、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程（プログラム）中心の考え方に再整理していく必要がある」との指摘を踏まえ、学部段階の教育を「学士課程教育」として位置付けている。

においては、医学、心理学、社会学、哲学等の学際的な知識を基盤とする独自の学問領域として「看護学」の発展を目指し、この「看護学」を基盤として、看護師、保健師、また、助産師養成に特化した教育内容（これ以下、看護師養成、保健師養成、助産師養成に特化した教育を本報告書ではそれぞれ「看護師教育」、「保健師教育」、「助産師教育」という。）も併せて体系的に教授してきた。

その成果として大学は、看護学基礎カリキュラムの中で、幅広い専門知識と研究能力を備えた看護の実践者、研究者、教育者を養成し、医療・看護の発展に様々な貢献をしてきた。

＜学士力の確保に向けた課題＞

他方、社会の変化に伴い、看護系大学に限らず、大学教育は様々な課題に直面している。

大学・短期大学への志願者総数に対する入学者総数の割合（収容力）は92%に達しており、社会ではいわゆる大学全入時代⁴が到来したと言われている。こうした中で、大学教育全体の大きな課題として、目的意識の希薄化、学習意欲の低下等が進行しており、多様な学生への対応と併せて学士課程で学生が身に付けるべき学習成果を明確化していくことが求められている。これを受けて、平成20年12月には中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において、各専攻分野を通じて培う学習成果の参考指針（学士力）⁵が示された。

看護系大学においても、こうした指針が作成されていることの背景も踏まえ、当該大学の学生の実態に即した学習成果の具体的な達成水準等を主体的に考えていくことが求められている。

4 大学の入学受入規模が、入学志願者数とほぼ一致し、大学教育への需要が概ね充足された状態をいう。

5 この参考指針は、個々の大学における学位授与の方針等の策定のための参考となることを意図したものであり、もとより、その適用を国が各大学に強制することを求める趣旨ではない（中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年12月）参照）。

＜看護実践能力の養成における課題＞

専門分野に関しては、平成 16 年 3 月の文部科学省検討会の報告⁶において、今後、すべての看護師等には、主体的に考え行動することができ、保健、医療、福祉等のあらゆる場において看護ケアを提供できる能力を、生涯を通じて獲得していくことが求められている。また、患者・家族にとって最適な医療を効率的に提供するため、チーム医療の調整役として、これまで以上に高度なコミュニケーション能力も要請されている。

このような実践能力への期待に対して、実際には、医療の高度化や入院患者の高齢化、患者の安全の確保や権利意識の向上、在院日数の短縮等に伴い入院患者に占める重症患者の割合の増加、地域における看護の対象の複雑化（精神保健上の問題や児童虐待等）、さらには大学の急増に伴う実習施設確保の困難等により、臨地実習における実施内容が制限される傾向が生じ、卒業時の看護実践能力の強化が課題になっている。

加えて、実践能力の基盤となる医療人としての職業倫理と、国家資格を得るに足る職業アイデンティティの醸成も課題とされている。

看護師等にはこれまで以上に高い能力が求められ、学習環境も大きく変化する中、看護学基礎カリキュラムの在り方、そして、臨地実習の在り方等の検討も必要になっているなど、学士課程における看護系人材養成の在り方について全体的な見直しが求められている。

（2）大学院における看護系人材養成の現状

＜大学院の急増と教育の実質化に向けた課題＞

平成 4 年以降大学が急増したことを受けて、看護系大学院も平成 8 年より急激に増加している。（平成 8 年度 修士課程数 8、博士課程数 5、平成 22 年度 修士課程等数 127、博士課程数 61）

⁶ 「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標（看護学教育の在り方に関する検討会報告）」（平成 16 年 3 月 26 日）

大学院で養成が期待される人材としては、教育者、研究者、高度専門職業人⁷、そして、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材の養成が挙げられる⁸。大学院は研究機関であるのみならず、教育機関としての役割も重要であることから、コースワークの整備をはじめとする大学院教育の実質化が課題となっている。

＜高度専門職業人養成にかかる課題＞

中央教育審議会大学分科会大学院部会医療系ワーキンググループの調査では、ほとんどの医療系大学院が、人材養成目的に「研究者、高度専門職業人」養成を掲げていること、及び、医療系大学院全体で、学生の専門資格志向が増えていることや、研究を志向する学生が減少していることが報告された⁹。看護系大学院でも、専門看護師¹⁰を養成する課程が平成 22 年現在 60 大学となるなど、多様な高度専門職業人養成に取り組む大学は増加傾向にある。

医療の高度化等を背景に、学士課程等では困難な高度専門職業人の養成を修士課程等に期待する声も大きいですが、既存の課程においては高度専門職業人として具体的に修得させるべき臨床技能や研究能力に関する到達目標が不明確な場合も少なくなく、大学院教育の質という観点から課題も指摘されている。

また、修士課程で助産師養成を行っている課程では、職業に固有の能力と同時に、修士課程を修了した人材として共通に求められる資質・能力も育成するために、修得単位数が平均 54 単位と過密であることが学生と教員の負担となっているとの指摘がある。

＜教員の充実にかかる課題＞

⁷ 高度専門職業人とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業に就く者が考えられる。(出典：中央教育審議会大学分科会大学院部会「大学院教育の実質化の検証を踏まえた更なる改善について 中間まとめ」平成 22 年 10 月 29 日)

⁸ 中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」(平成 17 年 9 月 5 日) p9

⁹ 中央教育審議会大学分科会大学院部会 「大学院教育の実質化の検証を踏まえたさらなる改善について 中間まとめ」(平成 22 年 10 月 29 日)

¹⁰ 専門看護師とは、日本看護系大学協議会が認定した大学院にて教育を受け、日本看護協会が実施する専門看護師認定審査に合格した者である。平成 22 年 12 月現在 451 名が認定されている。

夜間土日開講や長期履修制度、e-learning を活用して履修の機会を確保する取組が広く浸透し、社会人の学習環境は充実してきたが、そうした取組に伴う教員の負担は増大し、教育体制の充実が課題となっている。

看護系大学が急激に増えたことによる教員の不足傾向や、博士課程に在学しながら教育にたずさわる教員が他分野と比較して多い等の現状もある中、高度専門職業人養成だけではなく、研究者や教育者の養成の充実も喫緊の課題である。

こうした認識に基づき、本検討会の審議事項の第三、「大学院における高度専門職業人養成の在り方」については、論点を高度専門職業人養成に限定せず、議論を進めた。

(3) 保健師助産師看護師法及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正

平成 21 年 7 月に公布された保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律(以下、「改正法」という。)の提案趣旨は、「急激な少子高齢化の進行による医療ニーズの増大と多様化、療養の場の多様化等の変化に的確に対応することが求められる中、地域医療を守り、国民に良質な医療、看護を提供していくために、看護師等の看護職員の資質及び能力の一層の向上や、看護職を一層魅力ある専門職とすることを通じた看護職員の確保が求められていること」であった。

こうした趣旨に基づき、保健師、助産師の国家試験受験資格に必要とされる修業年限が 6 か月以上から 1 年以上に延長され、看護師国家試験受験資格を有する者として、「大学において看護師になるのに必要な学科を修めて卒業した者」が追加された。また、新人看護職員に対する臨床研修実施の努力義務が、病院等に課された。

これらの法改正に続き、保健師・助産師の指定規則に定める教育内容の見直しが厚生労働省の検討会で行われた。文部科学省においても、厚生労働省の検討内容を大学・短期大学に適用する際の課題等について検討を行い、平成 23 年 1 月、指定規則が改正された。

この改正により、保健師の教育内容の一部が「地域看護学」から「公衆衛生看護学」へ

変更され、保健師及び助産師の国家試験受験資格取得に必要な単位数が従来の 23 単位から 28 単位に増加した。これに伴い、能力の強化や職業アイデンティティの育成が要請されるなど、資格取得にかかる教育のさらなる充実が求められることとなった。

2. 今後の大学における看護系人材養成の在り方 (以降 省略)

福岡看護大学大学院看護学研究科（修士課程）設置に係る要望書

我が国では、医療の高度化、保健・衛生・福祉の充実などにより平均寿命が延伸した一方で、出生数は減少し、少子高齢化が進展しています。団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には人口に占める高齢者の割合は 3 割を超え、その後も更に高齢化が進展すると見込まれています。

多くの高齢者は、住み慣れた地域で生活することを望んでいます。この希望に応えるため、医療・介護・予防・住まい・生活支援といった一連のサービスを切れ目なく一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築が進められています。

地域包括ケアシステムは、多くの職種と関係機関が連携してチームで医療やケアを提供する仕組みです。必然的に患者の最も近くにおいて患者の状態を把握している看護職は、職種間をつなぎ、円滑で効率的な協働を促す中核的な役割を担うことが期待されています。

このような認識に基づき福岡県看護協会では、2016 年から「地域包括ケアシステムの構築と推進」を重点事業に掲げ在宅医療を担う訪問看護師の養成研修等を実施するとともに、地域で行われる地域包括ケア会議に多くの会員を委員として派遣し、看護職としての役割を果たすべく取り組んでいます。

同時に、教育研修のあり方として、高度で専門的な看護職を育成する教育は大学院等の高等教育機関に委ね、広く病院や施設等で働く看護職の継続教育を充実させる方針の下、教育研修体系の見直しを進めています。

2017 年に開学した福岡看護大学は、「口腔医学」を取り入れた新しい「看護学」を学ぶ場として創設され、2021 年 3 月に 1 期生が卒業する予定です。経営主体である学校法人福岡学園は、口腔の健康を通じて全身の健康に貢献できる高度専門職業人として歯科医師を長年にわたり育成してこられました。歯科医師とともに高齢社会における包括的な健康支援活動のパートナーとなり得る看護専門職が誕生することは、看護の質の向上に大きく貢献するものと期待しています。

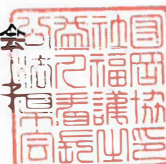
さらに、これから病院や地域において看護職が、医療技術の高度化に対応して質の高い看護を提供するとともに他職種連携の中核的な役割を担っていくためには、研究能力を備えた看護職者として、看護実践や看護教育の質の向上に貢献できる人材の育成が必要です。このためには、大学教育の学部課程教育にとどまらず、優れた研究能力等を備えた医療系人材を養成するための大学院教育が不可欠です。

つきましては、2021 年 3 月に卒業する福岡看護大学の 1 期生が途切れることなく大学院教育を受けることができるよう早急に福岡看護大学大学院看護学研究科（修士課程）を設置されるよう強く要望します。

2019年10月 7日

学校法人 福岡学園
理事長 水田 祥代 様
福岡看護大学
学長 窪田 恵子 様

公益社団法人 福岡県看護協会
会長 大和 日美子



看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋）

＜人材需要全般に関する質問事項＞

2. 大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性について質問したところ、回答件数 40 件の約 87.50%にあたる 35 件が「必要性を感じる」と回答していることから、大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性の高さがうかがえる。

問2 大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	35	87.50
2	必要性を感じない	3	7.50
3	わからない	1	2.50
	未回答・不明	1	2.50
	合計	40	100.00

＜福岡看護大学大学院に関する質問事項＞

3. 看護学研究科の新設の必要性

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、福岡看護大学大学院の看護研究科の新設について質問したところ、回答件数 40 件の約 65.00%にあたる 26 件が「必要性を感じる」と回答しており、福岡看護大学大学院の看護研究科の必要性の高さがうかがえる。

問3 看護学研究科の新設の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	26	65.00
2	必要性を感じない	3	7.50
3	わからない	10	25.00
	未回答・不明	1	2.50
	合計	40	100.00

看護学研究科看護学専攻修士課程の進学需要等に関するアンケート調査結果報告書（抜粋）

＜福岡看護大学大学院に関する質問事項＞

4. 看護学研究科で学んだ修了生の採用

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用について質問したところ、回答件数 40 件の約 27.50%にあたる 11 件が「採用したい」と回答しており、回答件数 40 件の約 32.50%にあたる 13 件が「採用を検討したい」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生への採用意向の高さがうかがえる。

このような福岡県を中心に所在する一部の医療機関や教育機関等に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生への積極的な採用意向が示されていることから、修了後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。

問4 看護学研究科で学んだ修了生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したい	11	27.50
2	採用を検討したい	13	32.50
3	採用は考えない	3	7.50
4	わからない	9	22.50
5	その他	4	10.00
	未回答・不明	0	0.00
	合計	40	100.00

福岡看護大学大学院
看護学研究科看護学専攻修士課程(仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書

令和2年1月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要調査（集計結果）

【在学生】

調査対象等	1
調査結果概要	2～7
調査対象者に関する質問事項	
学年	2
修士の学位の取得	3
福岡看護大学大学院に関する質問事項	
看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル	4
看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望	5
看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望	6

II. 進学需要調査（集計結果）

【有職者】

調査対象等	8
調査結果概要	9～14
調査対象者に関する質問事項	
勤務先	9
修士の学位の取得	10
福岡看護大学大学院に関する質問事項	
看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル	11
看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望	12
看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望	13

III. 人材需要調査（集計結果）

調査対象等	15
調査結果概要	16～20
人材需要全般に関する質問事項	
職種	16
人材の充足状況	17
大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性	18
福岡看護大学大学院に関する質問事項	
看護学研究科の新設の必要性	19
看護学研究科で学んだ修了生の採用	20

IV. 参考資料

進学需要調査関係

設置計画の概要

アンケート調査票（在学生・有職者）

アンケート依頼先一覧（有職者）

人材需要調査関係

アンケート調査票（医療機関・教育機関等）

アンケート依頼先一覧（医療機関・教育機関等）

I . 進学需要調査（集計結果）

【在学生】

I. 進学需要調査（集計結果）

【調査対象等】

福岡看護大学では、令和3年4月の開設に向けて福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置を計画しており、この福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、福岡看護大学の看護学部の在学学生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

福岡看護大学の看護学部の在学学生

②調査方法

調査対象者への直接配布、直接回収

③調査実施

令和元年11月

④調査件数

回答者数：315人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<調査対象者に関する質問事項>

【学年】

福岡看護大学の看護学部の在学生に対して、学年について質問したところ、回答者数 315 人の約 34.29%にあたる 108 人が「1 年生」、回答者数 315 人の約 32.70%にあたる 103 人が「2 年生」、回答者数 315 人の約 32.70%にあたる 103 人が「3 年生」と回答している。

【学年】

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1 年生	108	34.29
2	2 年生	103	32.70
3	3 年生	103	32.70
	未回答・不明	1	0.32
	合計	315	100.00

<調査対象者に関する質問事項>

1. 修士の学位の取得

福岡看護大学の看護学部の在学生に対して、修士の学位の取得について質問したところ、回答者数 315 人の約 14.60%にあたる 46 人が「修士の学位の取得を考えている」と回答しており、学年別では、1 年生 18 人、2 年生 20 人、3 年生 8 人が、「修士の学位の取得を考えている」と回答している。

問 1 修士の学位の取得（全体）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	修士の学位の取得を考えている	46	14.60
2	修士の学位の取得は考えていない	148	46.98
3	わからない	119	37.78
	未回答・不明	2	0.63
	合計	315	100.00

問 1 修士の学位の取得（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1 年生／修士の学位の取得を考えている	18
—	2 年生／修士の学位の取得を考えている	20
—	3 年生／修士の学位の取得を考えている	8
	合計	46

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

2. 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル

福岡看護大学の看護学部の在学生に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデルについて質問したところ、回答者数 315 人の約 30.48%にあたる 96 人が「設置計画の概要にある人材養成モデルAに魅力を感じる」と回答しており、回答者数 315 人の約 17.46%にあたる 55 人が「設置計画の概要にある人材養成モデルBに魅力を感じる」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデルに対する魅力の高さをうかがうことができる。

また、学年別では、1年生 36 人、2年生 41 人、3年生 19 人が、「設置計画の概要にある人材養成モデルAに魅力を感じる」と回答しており、1年生 19 人、2年生 24 人、3年生 12 人が、「設置計画の概要にある人材養成モデルBに魅力を感じる」と回答している。

問2 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル（全体）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	人材養成モデルAに魅力を感じる	96	30.48
2	人材養成モデルBに魅力を感じる	55	17.46
3	魅力を感じない	43	13.65
4	わからない	120	38.10
	未回答・不明	1	0.32
	合計	315	100.00

問2 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／人材養成モデルAに魅力を感じる	36
—	2年生／人材養成モデルAに魅力を感じる	41
—	3年生／人材養成モデルAに魅力を感じる	19
	合計	96

問2 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／人材養成モデルBに魅力を感じる	19
—	2年生／人材養成モデルBに魅力を感じる	24
—	3年生／人材養成モデルBに魅力を感じる	12
	合計	55

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

3. 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望

福岡看護大学の看護学部の在学生に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 315 人の約 5.71%にあたる 18 人が「受験を希望する」と回答しており、回答者数 315 人の約 23.81%にあたる 75 人が「受験先の一つとして考える」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な受験意向がうかがえる。

また、学年別では、1年生 8 人、2年生 10 人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験を希望する」と回答しており、1年生 31 人、2年生 29 人、3年生 15 人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験先の一つとして考える」と回答している。

問3 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望（全体）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	18	5.71
2	受験先の一つとして考える	75	23.81
3	受験を希望しない	123	39.05
4	わからない	97	30.79
	未回答・不明	2	0.63
	合計	315	100.00

問3 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／受験を希望する	8
—	2年生／受験を希望する	10
—	3年生／受験を希望する	0
	合計	18

問3 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／受験先の一つとして考える	31
—	2年生／受験先の一つとして考える	29
—	3年生／受験先の一つとして考える	15
	合計	75

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望

福岡看護大学の看護学部の在学生に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 315 人の約 12.38%にあたる 39 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 315 人の約 18.41%にあたる 58 人が「併願先の結果によって進学を希望する」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学意向がうかがえる。

また、学年別では、1年生 13 人、2年生 19 人、3年生 7 人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答しており、1年生 31 人、2年生 19 人、3年生 8 人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「併願先の結果によって進学を希望する」と回答している。

問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（全体）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	進学を希望する	39	12.38
2	併願先の結果によって進学を希望する	58	18.41
3	進学を希望しない	32	10.16
4	わからない	58	18.41
	未回答・不明	128	40.63
	合計	315	100.00

問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／進学を希望する	13
—	2年生／進学を希望する	19
—	3年生／進学を希望する	7
	合計	39

問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数／人
—	1年生／併願先の結果によって進学を希望する	31
—	2年生／併願先の結果によって進学を希望する	19
—	3年生／併願先の結果によって進学を希望する	8
	合計	58

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（受験希望×進学希望）

福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験を希望する」又は「受験先の一つとして考える」と回答した福岡看護大学の在学生のうち、看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答した在学生は 33 人となっている。

また、学年別では、1 年生 11 人、2 年生 17 人、3 年生 5 人が、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答している。

このような福岡看護大学の看護学部の在学生に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学希望が示されていることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問 3 × 問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（全体）

No.	カテゴリ	件数/人
1*1	受験を希望する×進学を希望する	12
2*1	受験先の一つとして考える×進学を希望する	21
	合計	33

問 3 × 問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（学年別）

No.	カテゴリ	件数/人
—	1 年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	11
—	2 年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	17
—	3 年生/受験を希望する or 受験先の一つとして考える×進学を希望する	5
	合計	33

Ⅱ. 進学需要調査（集計結果）

【有職者】

Ⅱ. 進学需要調査（集計結果）

【調査対象等】

福岡看護大学では、令和3年4月の開設に向けて福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置を計画しており、この福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

看護師として医療機関等に勤務している者
教育者として教育機関等に勤務している者

②調査方法

調査対象者への直接配布、直接回収
調査対象者への郵送による配布、回収

③調査実施

令和元年11月

④調査件数

回答者数：568人

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<調査対象者に関する質問事項>

【勤務先】

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者に対して、勤務先について質問したところ、回答者数 568 人の約 99.47%にあたる 565 人が「看護師として医療現場等に勤務」と回答しており、回答者数 568 人の約 0.18%にあたる 1 人が「教育者として学校現場等に勤務」と回答している。

【勤務先】

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	看護師として医療現場等に勤務	565	99.47
2	教育者として学校現場等に勤務	1	0.18
3	その他	2	0.35
	未回答・不明	0	0.00
	合計	568	100.00

<調査対象者に関する質問事項>

1. 修士の学位の取得

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者に対して、修士の学位の取得について質問したところ、回答者数 568 人の約 19.01%にあたる 108 人が「修士の学位の取得を考えている」と回答していることから、修士の学位の取得に対する積極的な意向がうかがえる。

問 1 修士の学位の取得

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	修士の学位の取得を考えている	108	19.01
2	修士の学位の取得は考えていない	303	53.35
3	わからない	153	26.94
	未回答・不明	4	0.70
	合計	568	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

2. 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデルについて質問したところ、回答者数 568 人の約 45.77%にあたる 260 人が「設置計画の概要にある人材養成モデルAに魅力を感じる」と回答しており、回答者数 568 人の約 25.00%にあたる 142 人が「設置計画の概要にある人材養成モデルBに魅力を感じる」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデルに対する魅力の高さがうかがえる。

問2 看護学研究科看護学専攻修士課程における人材養成モデル

No.	カテゴリ	件数/人	全体/%
1	人材養成モデルAに魅力を感じる	260	45.77
2	人材養成モデルBに魅力を感じる	142	25.00
3	魅力を感じない	39	6.87
4	わからない	127	22.36
	未回答・不明	0	0.00
	合計	568	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

3. 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 568 人の約 2.99%にあたる 17 人が「受験を希望する」と回答しており、回答者数 568 人の約 20.60%にあたる 117 人が「受験先の一つとして考える」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な受験意向がうかがえる。

問3 看護学研究科看護学専攻修士課程の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	17	2.99
2	受験先の一つとして考える	117	20.60
3	受験を希望しない	269	47.36
4	わからない	164	28.87
	未回答・不明	1	0.18
	合計	568	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している有職者に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合の進学希望について質問したところ、回答者数 568 人の約 12.68%にあたる 72 人が「進学を希望する」と回答しており、回答者数 568 人の約 9.86%にあたる 56 人が「併願先の結果によって進学を希望する」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学意向がうかがえる。

問 4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	進学を希望する	72	12.68
2	併願先の結果によって進学を希望する	56	9.86
3	進学を希望しない	97	17.08
4	わからない	115	20.25
	未回答・不明	228	40.14
	合計	568	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

4. 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望（受験希望×進学希望）

福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程が設置された場合、「受験を希望する」又は「受験先の一つとして考える」と回答した有職者のうち、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程に合格した場合、「進学を希望する」と回答した有職者は51人となっている。

このような福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に勤務している一部の有職者に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科看護学専攻修士課程への積極的な進学希望が示されていることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問3×問4 看護学研究科看護学専攻修士課程への進学希望

No.	カテゴリ	件数／人
1*1	受験を希望する×進学を希望する	15
2*1	受験先の一つとして考える×進学を希望する	36
	合計	51

Ⅲ. 人材需要調査（集計結果）

Ⅲ. 人材需要調査（集計結果）

【調査対象等】

福岡看護大学では、令和3年4月の開設に向けて福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置を計画しており、この福岡看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等

②調査方法

医療機関や教育機関等への直接配布、直接回収
医療機関や教育機関等への郵送による配布、回収

③調査実施

令和元年11月

④調査件数

回答件数：40件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

<人材需要全般に関する質問事項>

【職種】

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、職種について質問したところ、回答件数 40 件の約 55.00%にあたる 22 件が「医療関連機関」と回答しており、回答件数 40 件の約 2.50%にあたる 1 件が「福祉関連施設」、回答件数 40 件の約 42.50%にあたる 17 件が「教育関連機関」と回答している。

【職種】

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	医療関連機関	22	55.00
2	福祉関連施設	1	2.50
3	教育関連機関	17	42.50
4	その他	0	0.00
	未回答・不明	0	0.00
	合計	40	100.00

<人材需要全般に関する質問事項>

1. 人材の充足状況

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、看護実践や看護継続教育の質の向上に貢献できる人材の充足状況について質問したところ、回答件数 40 件の約 7.50% にあたる 3 件が「非常に不足している」と回答しており、「不足している」と回答している約 12.50%にあたる 5 件と「若干不足している」と回答している約 62.50%にあたる 25 件を合わせると、全体の約 82.50%にあたる 33 件が不足の状況であると回答していることから、医療機関や教育機関等における看護実践や看護継続教育の質の向上に貢献できる人材の不足状況がうかがえる。

問 1 人材の充足状況

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	充足している	7	17.50
2	若干不足している	25	62.50
3	不足している	5	12.50
4	非常に不足している	3	7.50
5	わからない	0	0.00
	未回答・不明	0	0.00
	合計	40	100.00

<人材需要全般に関する質問事項>

2. 大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性について質問したところ、回答件数40件の約87.50%にあたる35件が「必要性を感じる」と回答していることから、大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性の高さがうかがえる。

問2 大学院で看護分野の教育を修めた人材の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	35	87.50
2	必要性を感じない	3	7.50
3	わからない	1	2.50
	未回答・不明	1	2.50
	合計	40	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

3. 看護学研究科の新設の必要性

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科の新設について質問したところ、回答件数 40 件の約 65.00%にあたる 26 件が「必要性を感じる」と回答しており、福岡看護大学大学院の看護学研究科の必要性の高さがうかがえる。

問3 看護学研究科の新設の必要性

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	必要性を感じる	26	65.00
2	必要性を感じない	3	7.50
3	わからない	10	25.00
	未回答・不明	1	2.50
	合計	40	100.00

<福岡看護大学大学院に関する質問事項>

4. 看護学研究科で学んだ修了生の採用

福岡県を中心に所在している医療機関や教育機関等に対して、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用について質問したところ、回答件数 40 件の約 27.50%にあたる 11 件が「採用したい」と回答しており、回答件数 40 件の約 32.50%にあたる 13 件が「採用を検討したい」と回答していることから、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生への採用意向の高さがうかがえる。

このような福岡県を中心に所在する一部の医療機関や教育機関等に限定した調査結果においても、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生への積極的な採用意向が示されていることから、修了後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。

問 4 看護学研究科で学んだ修了生の採用

No.	カテゴリ	件数/件	全体/%
1	採用したい	11	27.50
2	採用を検討したい	13	32.50
3	採用は考えない	3	7.50
4	わからない	9	22.50
5	その他	4	10.00
	未回答・不明	0	0.00
	合計	40	100.00

IV. 參考資料

進学需要調査関係

福岡看護大学 看護学研究科 看護学専攻 修士課程（仮称）設置計画の概要

□計画概要 ※設置組織、学生定員、開設時期、設置場所
については予定

- * 設置組織：看護学研究科看護学専攻修士課程（2年制）
- * 学生定員：入学定員5名／収容定員10名
- * 開設時期：令和3年4月
- * 設置場所：福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号
- * アクセス：福岡市営地下鉄七隈線賀茂駅1番出口から徒歩で約10分



□教育研究上の目的

* 看護学研究科では、「多様に発展する医療分野で活躍するための高度で知的な素養を養うことを目的として、看護学の専門知識や能力を基礎として、より高度な看護実践と看護教育活動を行うために、専門知識を応用する能力と課題に対する柔軟な思考力や深い洞察に基づく主体的な行動力を身に付けるための教育を行う。また、学部段階の教育で養成された看護学分野の基礎的な資質能力の修得を前提として、口腔から全身への健康支援に資する看護実践力を備えた上で、看護の研究活動を遂行する能力を培う教育を行う。」こととしています。

□養成する人材／人材養成モデル

- * 学部教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的な知識や能力を一層深化させ、口腔から全身への健康支援に資する看護実践力を備えた上で、研究能力を備えた看護職者として、看護実践や看護教育の質の向上に貢献できる中核的な役割を果たす人材を養成します。

【人材養成モデルA（現場で指導的・管理的な役割を果たす実践的看護職の人材像）】

- * 看護学に関する専門的な知識と実際にそれらを応用する能力を身に付けて、看護実践に関する諸課題を科学的に探究し、その成果を看護実践の開発・改善に活かすことのできる実践的な役割を果たす人材を養成します。修了後は、現場での総合的な看護マネジメントを担う看護指導者や看護管理者として活躍することが想定されます。

【人材養成モデルB（臨床看護や基礎教育課程の教育現場において指導的役割を果たす看護職の人材像）】

- * 医療看護に関する幅広い知識の理解のもと、看護学に関する専門的な知識と実際にそれらを応用する能力及び看護研究に関する基礎的な知識と方法を身に付け、看護実践・看護教育に関する事象を学術的に調査研究し、その成果を看護教育の実践・充実に活かすことのできる指導的な役割を果たす人材を養成します。修了後は、医療機関等における人材育成のための継続教育や生涯教育の推進、看護師を目指す実習生に対する臨地実習指導、看護基礎教育機関等において看護教育・人材育成に携わることが想定されます。

□学費等 ※近隣の私立の大学院の学費との比較

* 福岡看護大学大学院

看護学研究科 看護学専攻 修士課程（仮称） 900,000円（入学金20万円 授業料等70万円）
（本学出身者は入学金を半額免除する）

* 聖マリア学院大学

大学院 看護学研究科 看護学専攻 1,300,000円（入学金25万円 授業料105万円）

* 国際医療福祉大学

大学院 保健福祉学研究科 保健医療学専攻 1,400,000円（入学金30万円 授業料110万円）

進学需要調査 アンケート調査票 配布先一覧（医療機関等／23件）

No.	医療機関等名	所在地
1	九州大学病院	福岡市東区馬出 3-1-1
2	福岡大学病院	福岡市城南区七隈 7-45-1
3	福岡大学筑紫病院	筑紫野市俗明院 1-1-1
4	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	福岡市中央区地行浜 1-8-1
5	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	古賀市千鳥 1-1-1
6	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	福岡市南区野多目 3-1-1
7	独立行政法人国立病院機構 福岡病院	福岡市南区屋形原 4-39-1
8	独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-1
9	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	神埼郡吉野ヶ里町三津 160
10	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉 5-1-1
11	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町 13-1
12	福岡赤十字病院	福岡市南区大楠 3-1-1
13	特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院	大野城市南大利 2-7-2
14	社会福祉法人恩賜財団済生会福岡県済生会福岡総合病院	福岡市中央区天神 1-3-46
15	福岡歯科大学医科歯科総合病院	福岡市早良区田村 2-15-1
16	一般財団法人平成紫川会小倉記念病院	北九州市小倉北区浅野 3-2-1
17	産業医科大学病院	北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
18	佐賀県医療センター好生館	佐賀市嘉瀬町大字中原 400
19	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院	北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1
20	山口県立総合医療センター	山口県防府市大字大崎 10077
21	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会下関総合病院	山口県下関市安岡町 8-5-1
22	山口大学医学部附属病院	山口県宇部市南小串一丁目 1-1
23	佐賀大学医学部附属病院	佐賀市鍋島五丁目 1-1

人材需要調査関係

看護学研究科 看護学専攻 修士課程（仮称）の人材需要に関するアンケート調査
(看護部長様、看護専門学校教務部長・教務主任様)

福岡看護大学では、看護基礎教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的な知識や能力を一層深化させ、口腔から全身への健康支援に資する看護実践力を備えた上で、研究能力を備えた看護職者として、看護実践や看護教育の質の向上に貢献できる中核的な役割を果たす人材の養成を目的として、看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）の設置を検討しております。

このアンケート調査は、医療・教育機関等の管理者様のご意見をお聞きし、看護学研究科（仮称）の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。回答は、別紙の「福岡看護大学看護学研究科（仮称）設置計画の概要」をご覧ください。設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

【貴機関の職種について、お伺いします。】

次の中から、該当する職種を選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|----------|------------|
| 1 医療関連機関 | 3 教育関連機関 |
| 2 福祉関連施設 | 4 その他（具体的に |

問1 現在の貴機関における看護実践や看護継続教育の質の向上に貢献できる人材の充足状況について、お尋ねいたします。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1 充足している | 4 非常に不足している |
| 2 若干不足している | 5 わからない |
| 3 不足している | |

問2 あなたは、大学院で看護分野の教育を修めた人材について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|---------|
| 1 必要性を感じる | 3 わからない |
| 2 必要性を感じない | |

問3 あなたは、福岡看護大学大学院の看護学研究科の新設について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|---------|
| 1 必要性を感じる | 3 わからない |
| 2 必要性を感じない | |

問4 あなたは、福岡看護大学大学院の看護学研究科で学んだ修了生の採用について、どのようにお考えになりますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 採用したい | 4 わからない |
| 2 採用を検討したい | 5 その他（具体的に |
| 3 採用は考えない | |

看護学研究科看護学専攻修士課程（仮称）に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

これで、アンケートは終わりです。ご多忙中、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

人材需要調査 アンケート調査票 配布先一覧（医療機関等／23件）

No.	医療機関等名	所在地
1	九州大学病院	福岡市東区馬出 3-1-1
2	福岡大学病院	福岡市城南区七隈 7-45-1
3	福岡大学筑紫病院	筑紫野市俗明院 1-1-1
4	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	福岡市中央区地行浜 1-8-1
5	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	古賀市千鳥 1-1-1
6	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	福岡市南区野多目 3-1-1
7	独立行政法人国立病院機構 福岡病院	福岡市南区屋形原 4-39-1
8	独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-1
9	独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	神埼郡吉野ヶ里町三津 160
10	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉 5-1-1
11	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町 13-1
12	福岡赤十字病院	福岡市南区大楠 3-1-1
13	特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院	大野城市南大利 2-7-2
14	社会福祉法人恩賜財団済生会福岡県済生会福岡総合病院	福岡市中央区天神 1-3-46
15	福岡歯科大学医科歯科総合病院	福岡市早良区田村 2-15-1
16	一般財団法人平成紫川会小倉記念病院	北九州市小倉北区浅野 3-2-1
17	産業医科大学病院	北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
18	佐賀県医療センター好生館	佐賀市嘉瀬町大字中原 400
19	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院	北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1
20	山口県立総合医療センター	山口県防府市大字大崎 10077
21	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会下関総合病院	山口県下関市安岡町 8-5-1
22	山口大学医学部附属病院	山口県宇部市南小串一丁目 1-1
23	佐賀大学医学部附属病院	佐賀市鍋島五丁目 1-1

人材需要調査 アンケート調査票 配布先一覧（教育機関等／29件）

No.	教育機関等名	所在地
1	学校法人麻生塾 専門学校麻生看護大学校	飯塚市芳雄町 3-83
2	北九州市立看護専門学校	北九州市小倉北区馬借 2-1-1
3	公益財団法人健和会 健和看護学院	北九州市小倉北区大手町 15-1
4	医療法人小倉蒲生病院 小倉南看護専門学校	北九州市小倉南区蒲生 5-5-2
5	社会医療法人製鉄記念八幡病院 製鉄記念八幡看護専門学校	北九州市八幡東区春の町 1-1-1
6	学校法人創心会 西日本看護専門学校	北九州市小倉南区湯川 5-9-27
7	学校法人福岡保健学院 福岡看護専門学校	福岡市東区和白丘 2-1-12
8	学校法人水光学院 宗像看護専門学校	福津市宮司 2-11-20
9	学校法人高木学園 大川看護福祉専門学校	大川市大字酒見 391-5
10	学校法人高尾学園 高尾看護専門学校	小郡市小郡 1428-1
11	遠賀中間医師会立 遠賀中央看護助産学校	遠賀郡水巻町下二西 2-1-33
12	学校法人福岡保健学院 福岡水巻看護助産学校	遠賀郡水巻町立屋敷 1-14-51
13	一般社団法人朝倉医師会 あさくら看護学校	朝倉市頓田 294-1
14	学校法人戸早学園 専門学校北九州看護大学校	北九州市小倉南区春ヶ丘 10-15
15	学校法人福岡医療学院 福岡医療専門学校 看護科	福岡市早良区祖原 3-1
16	社会医療法人陽明会 おばせ看護学院	京都郡苅田町新津 1598 番地
17	一般社団法人福岡県私設病院協会 福岡県私設病院協会看護学校	福岡市南区那の川 1-5-27
18	一般社団法人福岡市医師会 看護専門学校	福岡市早良区百道浜 1-6-9
19	学校法人滋慶文化学園 福岡医健・スポーツ専門学校 看護科	福岡市博多区石城町 20-13
20	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	久留米市宮ノ陣 3-7-47
21	学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 看護学科	北九州市小倉北区馬借 1-1-2
22	一般社団法人北九州市小倉医師会 北九州小倉看護専門学校	北九州市小倉北区中島 1-19-17
23	一般社団法人八女筑後医師会 八女筑後看護専門学校	八女市本村 656-1
24	一般社団法人大牟田医師会 看護専門学校	大牟田市不知火町 3-104
25	一般社団法人北九州市戸畑区医師会 北九州市戸畑看護専門学校	北九州市戸畑区正津町 2-10
26	一般社団法人久留米医師会 久留米医師会看護専門学校	久留米市櫛原町 45
27	一般社団法人福岡社会保険医療協会 筑豊看護専門学校	直方市大字山部 765-1
28	学校法人原学園 原看護専門学校	福岡市東区青葉 6-40-7
29	公益財団法人北九州市八幡医師会 八幡医師会看護専門学校	北九州市八幡東区平野 2-1-1